

2021年8月6日
(株)ベネッセホールディングス

2022年3月期 第1四半期決算 FAQ

2022年3月期 第1四半期決算発表に関して、株主・投資家の皆様から想定されるご質問内容をまとめました。決算短信および決算補足資料とあわせてご覧ください。

全体について

1. 第1四半期の業績は、計画通りか？

全体としては、売上・利益ともに概ね計画通りに推移しています。

営業利益は▲10.2億円ですが、第1四半期は、国内教育事業で新学期にあたり製造原価が増加すること等により、もともと事業構造上利益水準が低い四半期であり、計画通りです。

2. 経常利益よりも親会社株主に帰属する四半期純利益の対前年同期の赤字改善幅が20億円程度縮小している理由は？

経常利益が前年同期比+47.5億円であったのに対して、親会社株主に帰属する四半期純利益は+26.3億円と20億円強改善幅が縮小しています。

この主な要因は、前期に新型コロナウイルス感染症に伴い主にベルリッツで発生した税金還付の剥落等による法人税等の増加、および外部株主が存在する連結子会社の損益改善に伴う非支配株主持分の増加です。

3. 通期の見通しに変更はあるか？

通期の見通しに変更はありません。

「進研ゼミ」および国内「こどもちゃれんじ」

4. 第1四半期の在籍数の状況について

「進研ゼミ」および国内「こどもちゃれんじ」は4月在籍が対前年+0.3%でスタートしましたが、継続率が対前年で下がっていることから、第1四半期の延べ在籍数は前年同期比で▲1.2%とマイナスに転じ、計画もやや下回っています。

各講座での課題点の改善や活用促進を行うことで、下期に向けて回復を図ります。

なお、「進研ゼミ」の第1四半期の売上高・営業利益につきましては、収益認識基準の変

更によるマイナス影響がありますが、その影響を除いた実質ベースでは、価格改定やオンライン講座の伸びが在籍数の減少の影響を上回り、前年同期比で増収・増益となりました。

学校向け教育事業、塾・教室事業

5. 学校向け教育事業の新型コロナウイルス感染症の影響からの回復状況は？

昨年度の第1四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で学校が休校になり、高校事業の売上が半分程度まで落ち込みました。今年度の第1四半期は、模擬試験売上の計上月のずれ等による特殊要因を除けば、コロナ前の2019年度の水準を回復しています。

6. 塾・教室事業の新型コロナウイルス感染症の影響からの回復状況は？

塾・教室事業は、4月の在籍数がコロナ前の2019年度を上回ってスタートし、第1四半期も在籍数は堅調に推移しています。

第1四半期は、売上高・営業利益ともに、コロナ前の2019年度の水準に回復しています。

中国「こどもちゃれんじ」事業

7. 第1四半期の在籍数の状況は？

中国事業は、決算期が12月末日です。少子化の加速や競争激化、新型コロナウイルス感染症の影響による販売チャネルの縮小等により、第1四半期（1～3月期）の延べ在籍は前年同期比で減少しています。

なお、昨年度の第1四半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で教材の発送を一時休止したため、売上高は前年同期比で増収となっています。

8. 中国での教育企業に対する規制策が公表されたが影響は？

小・中学生向けの学習塾や学科の早期教育等が規制の対象ですが、当社の「こどもちゃれんじ」は幼児向けであり、早期教育の領域でもないため、対象にはあたりません。

介護・保育事業

9. 足元の入居率の状況は？

4月以降の新型コロナウイルスの感染拡大や、それを受けた東京都等での緊急事態宣言の発令等により、6月末の入居率は3月末から1ポイント強低下しています。

今後の入居率については、全体の感染者数や高齢者のワクチン接種率等により変動してくると見込んでいます。

ベルリッツ事業

10. 足元の状況は？

Berlitz Corporation は決算日が 12 月末日です。第 1 四半期（1～3 月期）は、新型コロナウイルス感染症による語学レッスン数の減少や、ELS 事業における留学生の減少等により、前年同期比で減収となりましたが、コスト削減により赤字幅は減少しました。予算に対しては、売上高・営業利益ともに計画通りに推移しています。